



西田恵泉「麦秋」(昭和4年) 栗東歴史民俗博物館所蔵

# りっとう再発見

186

## 郷土を愛した画家・西田恵泉

栗東歴史民俗博物館

TEL 554・2733  
FAX 554・2755



麦の刈り入れどきの昼下がり、休息(小昼)をとる一家(写真上)。

穏やかな農村の風景を描くこの作品は、大宝村(栗東市)の農家に生まれた日本画家・西田恵泉(1902～1980)が、京都市立絵画専門学校の卒業制作として昭和4年(1929)に描いたもので、「麦秋」と題されています。のちに、恵泉の母校でもある大宝小学校に寄贈され、長年、その講堂に掲げられていたので、懐かしく思い出す人も多いかも知れません。

京都市立絵画専門学校在学中の昭和3年(1928)に中央美術展、大札記念京都大博覧会美術展で入選するなど、京都で順調に画業を積み重ねていた恵泉は、昭和10年(1935)に大宝村へと戻りました。この時期の恵泉は、自身の創作活動はもとより、蒲生郡桜川村(東近江市綺田町)の洋画家野口謙蔵(1901～1944)とともに、滋賀県の画壇の形成に取り組んでいます。

戦時中の昭和18年(1943)から翌年3月にかけて、恵泉は、従軍画家としてフィリピンに派遣されることとなりますが、その背景には、当初滋賀県から打診を受けた野口謙蔵が、病気を理由に辞退したという事情がありました。恵泉の帰国後、昭和19年(1944)7月に、野口謙蔵は亡くなっています。

終戦後の恵泉は、自らが生まれ育った農村や、琵琶湖をとりまく近江の風景を画題とした創作活動を続けたほか、高等学校の美術講師として後進の育成にも取り組みます。また、晩年には美術の啓蒙、普及にも尽力し、昭和51年(1976)に設立された栗東町文化協会の初代会長に就くなど、栗東を中心とした地域文化の向上に貢献しました。

恵泉の晩年を代表する作品に、「安養寺山からの眺望」(写真左)があります。昭和50年(1975)、金勝山での全国植樹祭に出席するために栗東を訪れた天皇・皇后への天覧画として、栗東のまちを中心に、遠くは琵琶湖や湖西の山並までを描いたこの大作は、ふるさとを愛し見つめ続けた画家・西田恵泉のまなざしを今に伝えてくれています。



「安養寺山からの眺望」(昭和50年) 栗東歴史民俗博物館所蔵

■生誕120年記念 「西田恵泉 ―ふるさとを愛したまなざし―」

西田恵泉の生誕120年を記念し、その画業を紹介します。

会期 1月14日(土)から3月5日(日)

※詳細はお知らせ版8ページをご覧ください

周りの個性、自分の個性、認めることで広がる世界  
～2021年度 21世紀スローガンコンテスト 努力賞作品～